

I：健康福祉（健康で安心した暮らし）

分類	(集計上での分類)	良いところ	課題	自分たちができること・改善策	
健康促進のための地域活動	A1	地域活動	地域の活動・自治会がハブになっている / 区民・近所のふれあい豊か	地域活動の担い手の固定化・高齢化	地域活動・自治活動のブランディング（楽しい・いきいき）
			各地域で健康増進の取組を広報等で周知	交流スペース不足（公会堂・図書室の活用不足）	寄り所の提供（仕組みづくり）
			診療所がコミュニケーションの場にもなっている	独居高齢者の集まる場が不足	独居の人への声かけ、訪問
	民生委員・福祉活動	民生委員・児童委員の活動が活発、きめ細か	民生委員の数が人口減で減少、なり手不足	民生委員の選び方を工夫、副区長を充て職とする / 任期短縮（2年など）	
		社協が中心となり福祉活動を支援 / 歳末助け合い運動	民生委員の訪問が不十分では？	共助の理解浸透、地域自治組織の活動支援	
		独居高齢者に野菜を届ける活動 / 近所の人にも高齢者を気にかける	孤独者が多い、助けを言えない人が多い	独居・外出困難者への訪問や生活支援（ゴミ出しなど）	
	情報発信・サービス	つながるDAY・YABUポータルサイトがある	社協広報「かけはし」が見づらい(豊岡のNIKOが見やすい)	情報発信の改善（見やすさ・使いやすさ）	
		地域とのつながりを広報やケーブルTVで発信	社協等での障がい者販売の野菜がPR不足	地域資源の魅力発信（野菜販売のアピール）	
	世代間交流・居場所づくり	若い人も近所の人を気にかけている	世代間のギャップがある、若者とのつながり不足	世代を超えた交流イベントや仕組みづくり	
		地縁のつながりが保たれている	生活困窮者が声を上げにくい	公的サービスやマイクロバスを使いやすく、支援につなげる	
医療・福祉の充実	A2	医療体制	八鹿病院の設備・医療機器が充実 / 診療がスムーズ / 総合病院が近く安心	医師不足・後継者不足 / 専門医が少ない / 診療科が少ない	若い医師・スタッフの確保 / 総合診療の拡充 / 総合病院を但馬で1つに
			地域医療（大屋など）で公民の診療所があり安心	医療機関数が少ない / 診療所閉鎖 / リハビリ拠点不足	医師・スタッフ増員、在宅医療の拡充
			市民健診・人間ドックの取組がある / アフターケアも丁寧	健診の受診率が低い / 30歳以下健診の情報不足	健診の情報発信強化、受診率向上策
			オンライン診療を導入している	自宅でできるオンライン診療が不十分	スマホ活用のオンライン診療体制を充実
	出産・子育て	子どもの医療費無料 / 予防接種案内が届く	産科が近くにない / 八鹿病院で出産できない / 小児科不足	安心して出産できる体制の構築	
		健診やたまひよサロンなど交流の場がある	病児保育・預け先情報が少ない / 安全面の不安	病児保育体制の改善、情報発信強化	
	介護・高齢者支援	介護サービスが充実（施設・在宅とも多い）	介護施設不足 / 入所に時間がかかる	介護職の確保、給料UPで人材不足解消	
		ケアマネ対応が良い / 介護保険の対応が早い	介護料が高い / 高齢者医療費・保険料の負担大	介護・医療費軽減の検討	
		認知症カフェが多い / 知識が深まっている	認知症サポーター制度が機能していない / 若者巻き込み不足	小さなグループカフェの実施 / 地域全体で認知症理解を促進	
		つながる介護サービス（予防から介護まで）	介護と若者を結びつける取組不足 / 夜間介護サービス不足	「介護を自分ごと」として考える啓発、地域で介護を支える	
	障害・弱者支援	高齢者への地域見守り・支援	老老介護・在宅医療の負担増	高齢者を中心とした仕組み（養父モデル）の構築	
		障がい児への理解がある（近隣市より）	精神的障がい者への理解不足懸念	障がい者が地域で生き生き暮らせる環境づくり	
	市民の健康意識	福祉や予防の取組（ケーブルTVで注意喚起など）	支援・予防策が具体的でない / 情報発信不足	行政・市民がつながりやすい情報共有システムを強化	
		市民ドック、定期健診が受けられる	健診と人間ドックの違いが分かりにくい	情報を明確化し、市民が判断しやすい仕組み	
		熱中症注意喚起などが行われている	予防策が不十分、閉じこもりにつながる	一人暮らし高齢者への声かけ・食事支援（お弁当など）	
社会的処方	A3	社会的処方・仕組みづくり	健康に関する意識や取組が進んでいる	健康診断情報が少ない層（若者）への周知不足	健康な人を増やす取組（啓発・支援）
			市が社会的処方に積極的に取り組んでいる / 専門家の意見を取り入れている	社会的処方の概念が市民に伝わっていない / 言葉が分かりにくい	社会的処方の周知を強化（分かりやすい言葉で説明）
			社会的処方推進課があり、行政と関係機関とのつながりができている	アウトリーチから援助につながる率が不明 / 住民の理解不足	事例紹介や成果の見える化、情報発信強化
	高齢者の元気・活動	文化活動グループやコミナス活動が多い	文化活動は多いが、協会や他団体との連携が弱い	社会的処方の受け皿となる文化・地域活動の連携促進	
		「毎日元気にクラス」が各地区で行われている / フレイル予防につながっている	参加者が固定化 / 積極的に外に出る人が少ない	「ちょっと見る活動」などライトな参加を推進	
		元気高齢者が多く、地域のつながりが強い	高齢者の特技や才能が生かしきれていない	生きがいボランティア・キャリア登録制度の導入	
	シルバー人材センターが一人暮らし・高齢者の味方	シニアの活躍場所が限られている	高齢者が参加できる場や働く機会の拡充		

I：健康福祉（健康で安心した暮らし）

分類	(集計上での分類)	良いところ	課題	自分たちができること・改善策	
	地域つながり・居場所	地域でイベント・交流が盛ん / 住民のつながりが良い	独居高齢者の増加、孤立のリスク / 孤独死への不安	ゆるやかな声かけ・見守り活動を広げる	
		安心して暮らせるつながりがある	居場所（サロン・ふれあい喫茶）が固定化 / 老人クラブの解散	新しい居場所づくり、柔軟な交流スタイルの導入	
		地域での気配りや見守りが手厚い	同じ地区内でも参加しづらい人がいる	図書館や学校など多様な拠点を活用したつながり支援	
		地域組織・担い手	行政と地域が連携して活動している	地域役員の高齢化 / 後継者不足 / 役員負担が大きい	役員業務の細分化・アウトソーシング / 自治協の人的・金銭的支援
	地域組織・担い手	地域で支え合う意識がある	人が少なく役員の負担が増加 / 「福祉」と打ち出すと参加が減る	テーマを柔軟にし、誰もが関われる形に工夫	
		移動・交通手段	やぶくる、タクシーが活用できる	バスが少なく診療所に行きにくい / 本数不足	小型バスで運行本数を増やす / 八鹿病院行き定期バスを運行
		「正ちゃんタクシー」や介護タクシーがあり助かる	高齢者の通院の移動手段がない / バス停まで遠く不便	医療機関への移動用に安く利用できるタクシー制度を拡充	
		高齢者にはタクシー助成がある	距離によってタクシー券利用に差があり不公平感	タクシー等の利用を気軽にできる制度（デマンド交通）	
移動	A4	地域によってやぶくるの利用がある	自宅から医療・福祉施設が遠くて行きにくい / 買い物も遠い	異業種間送迎車の活用 / 電動スクーター専用道路など新しい移動手段を検討	
		医療機関アクセス	-	八鹿まで行かないと医療が受けられない	八鹿病院へのアクセス便（定期バス・送迎）の強化
		-	診療所が不便・歯科医不足 / 医療機関への移動が困難	地域医療へのアクセス改善（小型バス・送迎活用）	
		-	病院まで遠い・時間がかかるので行きたくない	近場の移動支援、在宅医療との連携強化	
インフラ・生活環境	-	道路・歩道がカート使用に不安 / 高齢者が安全に歩けない	トンネル整備や歩道環境改善（例：加保坂トンネル）		
	-	買い物したくても店が遠い、店が少ない	移動販売や送迎サービスの活用		
健康づくり	A5	健康づくり・運動習慣	スポーツクラブ活動で元気な高齢者が増えてきた	病气予防のためにスポーツ愛好の機会を増やしたい	インストラクター派遣による運動機会の拡充
		「毎日元気でクラス」が各区に広がっている / フレイル予防につながっている	男性の参加が非常に少ない	男性向け料理教室やコーヒー教室など、多様なプログラム導入	
		健康づくりの意識が高まっている	一般成人の健康づくりや社会体育施設の老朽化	社会体育施設の改修、世代を問わず参加できる健康づくり支援	
	デジタル活用・健康ポイント	健康ポイントのデジタル化で高齢者がデジタルに親しんでいる	やっぷー健康ポイントが使いにくい（アプリが難しい・登録できない）	日常生活でポイントを貯められる仕組み / スマホ教室と連携してサポート	
		やっぷー健康ポイント対象の活動が多い	アプリまでたどりつけない人がいる	健康シートを配布して食・運動の習慣化を支援	
	環境・生活面	ケーブルTVで体操を放映し、自宅でも運動ができる	歩行など運動量が少ない / 雪の通学路が危険	毎日できる健康シートを活用、地域での体操参加を促す	
		-	公衆トイレが少ない / 歩道が車中心で使いにくい	公衆トイレ・歩道環境の改善を行政に提案	
	-	ストレスが不健康の原因	地域交流イベントや趣味活動で心の健康を支える		
食と健康	「毎日元気でクラス」で栄養面も扱われている	健康づくりに「食」の視点が不足	シルバー人材センターの教室で食・栄養説明を強化 / 男性向け料理教室の実施		
安全安心・防災	A6	防災意識・消防団活動	消防団員の活躍、迅速な対応	消防団員不足・高齢化・地域格差	消防団員の裾野拡大（女性・高齢者も参加）、初期消火訓練の実施
		消防団員が多く（県内トップクラス）孤立支援もある	南但広域消防の職員不足・労働強化	初期消火システムや通報システムの導入で負担軽減	
		防災意識が高まり、毎年避難訓練が行われている	高齢者の消防訓練不足	高齢者向け訓練を実施、地域の役割分担で支援	
	避難場所・避難行動	福祉・防災マップの整備	避難場所が遠い / 狭い / 不備あり、マニュアル不足	安全な避難場所を増設、分散避難の推進	
		防災つながりがある	個別避難計画不足、周知不足	声かけ避難、乗り合わせ避難で弱者支援	
		子育て世代向け防災チラシを作成	高齢者や女性の声が十分反映されていない	避難所設備改善、地元施設を避難所として強化	
		-	移動手段の不足（高齢者・災害時）	早めの避難の呼びかけ、地域送迎体制づくり	
	防犯・安全環境	防犯カメラ設置補助金が充実、防犯カメラが安心につながっている	防犯対策不足（泥棒・暴力被害）、街灯の少なさ	防犯カメラ設置拡大、街灯増設を行政へ提案	
		ガス器具・電気器具の安全装置普及で火災が減少	道路環境の不備（白線・黄線なし、一方通行が分かりにくい）	逆走防止の標識設置を働きかける	
	情報発信・周知	地域での防災活動が定着	防災情報がスマホで利用しにくい / 告知放送の時間が不適切	放送時間の見直し、紙媒体や多様な媒体での周知強化	

II：子育て・教育（子育てしやすい）

分類	(集計上での分類)	良いところ	課題	自分たちができること・改善策	
若者世代 の居住・ 定住	B1	若者の教育・就 労	地元の仕事を知ることができる「トライやる」	進学先が少ない（中→高、高→大・専）、教育と就職先が結びついていない	デジタルオンライン教育の充実、Wi-Fi・施設環境整備
			-	若者が働く場所がない／学んだことを生かせる場が少ない	デジタルインフラ整備で新しい働き方を支援
			-	親から「帰ってきてでも働くところがない」と言われる	仕事情報の発信、地元就労の魅力进行可視化
	結婚・パート ナーシップ	結婚相談所がある	独身者が多い／出会いの場が少ない	婚活イベントを開催（市施設・YB活用）	
		-	結婚しないとサービスが受けられない（事実婚が容認されない）	パートナー制度の確立	
		-	婚活支援が弱い	結婚支援の部署・課を設置し、制度的に後押し	
	若者コミュニ ティ・移住	-	20～30代が少ない／若者同士のコミュニティがない	デジタルを活用した交流の場づくり	
		-	若者に施策内容が伝わっていない	SNS・リアルタイム情報発信の強化	
		-	「移住・子育てに魅力を感じる情報」が不足	高齢者からの子育て支援など、地域で育てる仕組みづくり	
出産、子 育ての充 実	B2	子育て支援・制 度	子どもの医療費無料、保育料無料、待機児童ゼロ	制度はあるが発信力不足で知られていない	総合案内の整備、広報の強化（分かりやすいシステム・横断的な案内）
			子育てサポートセンター・サロンがあり、居場所がある	子育て世帯にならないと恩恵を受けられない／相談の場が不足	「養父市ワンチーム」で包括的な支援体制を構築、相談の場づくり
			子育て施策が充実している → 移住につながっている	少子化の進行が速い／母子家庭や困窮世帯の支援が不足	子育てしやすいまちを強力にPRし、支援の裾野を広げる
	教育・学校・学 童	少人数で先生との距離が近い／就学弱者サポートあり	部活動ができない、生徒数不足／学童保育の充実不足	学童や放課後デイの拡充、クラブ活動の地域連携	
		不登校対策あり／就学支援制度（ククナ）あり	不登校児童生徒のその後の把握不足	長期的な支援（出生から死までの理念を持つ）	
		イライラしない子育て講座など、親の学びがある	夏休みなど長期休暇の子どもの居場所不足	居場所づくりと親支援の強化	
	出産・医療	産後ケアが充実している	出産は他市（豊岡など）でしかできず不安／安心できる病院がない	八鹿病院の機能強化やPR、安心出産体制の整備	
		医療費支援が充実	障がい児の親が働き方を制限される／ショートステイ・放課後デイ不足	医療と子育て支援の一体的な整備	
	少子化・婚活・ 地域づくり	子育てしやすいまちを冠として打ち出している	未婚率が高く、出産前の支援や出会いが不足	婚活支援（赤ちゃん先生の復活、イベント）、パートナー支援	
		補助が手厚い → 移住者がいる	子どもが少なく少子化が進行	「ベビーファースト」を養父市で積極PR、分譲地整備で定住促進	
未来の子 どもたち の環境	B3	自然・環境・遊 び場	自然が豊かで山や川が身近、食べ物がおいしい	自然を生かした体験学習が少ない／子どもが自由に自然に触れられない	授業や学童に自然環境を取り入れる／地域の人々が価値を理解し整備
			公園や広場がある（YBファブ、はさまじの公園など）	公園が少ない／古い遊具が撤去されるが新しい公園ができない／雨の日に遊べる場所不足	遊具の貸し出し／親水公園の設置／やっぱー公園活用
			広場や遊ぶ所が多い、家の外で遊べる	子どもの運動量が減っている／外で遊ぶ姿が少ない	地域ぐるみで自然体験や運動の機会を増やす
	医療・出産・子 育て支援	子どもの医療費が無料／片親でも安心して育てられる	出産できる病院がない（八鹿病院で分娩不可）／小児科が少ない	安心して出産・子育てできる医療体制をPRし、制度を周知	
		通学補助がある	申請が大変	申請の簡素化・情報発信の改善	
		子ども食堂の開設	運営の継続性や物資不足	地域住民からの物資・食材支援をPRし協力を得る	
	教育・学校・地 域とのつながり	少子化でも一人ひとりに目が届く／地域の人々が学校に関わる	小規模校で同級生が少ない／統廃合の検討が必要	自治協と学校園の交流強化／地域人材を学校へ活用	
		ICT環境が整備されてきた	機材の更新が追いついていない／勉強スペース不足	勉強スペースや施設活用を推進	
		地域の協力（民生委員の通学路指導など）	高齢者との交流が少ない／世代間交流不足	デイサービスと保育園の併設、世代間交流の仕組みづくり	
		給食甲子園で優勝した給食	PR不足（試食体験できるのに周知されていない）	「伝える」から「伝わる」情報発信へ改善	

II：子育て・教育（子育てしやすい）

分類	(集計上での分類)	良いところ	課題	自分たちができること・改善策	
	地域・施設・イベント	YBファブ：芝生広場や交流ができる施設がある	使用料が高い／遊具不足／図書館機能が弱い	使用料を下げて活用促進／遊具設置／蔵書拡充	
		無料で使える施設（旧太陽保育園）	デジタルインフラ不足	機材更新や施設整備	
		イベントができる場所が多い	まつりが減少／地域の賑わいが減っている	イベントや世代間交流を復活／地域の体験を担保	
		-	空き家が増えているが活用法がない	地域の遊び・交流の拠点に活用	
教育	B4	教育	小規模校・特認校があり、特色ある教育や小中一貫校がある	小規模校では学年横の競争が少なく成長機会に限られる／教育施設の適正化が課題	小規模特認校や小中一貫校の長所をPR／幼保小中高の連携を強化し発信
			自然を生かした教育（スキー教室、キャンプ、農業体験など）がある	「もっと大胆に自然を生かした教育を」との声	感性教育の導入／「何もないところから生み出す力」を育む教育を推進
			学校給食が美味しい・地産地消（蛇紋岩米、地元野菜使用）・アレルギー対応あり	PR不足（視察や給食コンクール入賞の周知が弱い）	SNS発信やPRを強化／「養父市の給食の魅力」を市内外に伝える
			生徒が素直で元気、あいさつが行き届いている	「子どもが小学校以降、悩みを相談できる相手がいない」という課題	生徒・保護者の意見聴取の場を増やす／地域と連携した見守り体制
			部活動の地域展開が始まっている	部活動の数が少ない／指導者不足／送迎の負担／過ごし方が課題	地域の人材活用／音楽・文化活動の機会を増やす／専任配置（巡回校）
			教育現場が新しい取組に前向き／ICT導入が進んでいる	ICT活用の人材不足／デジタル化が中途半端	ICT教育×リアルのバランスを整備／DX+大人向け学びも推進
			地域と教育のつながりが深い（トライやるウィーク、地域人材活用）	他市・他地域との交流に消極的	市全体で発信・アピール／北海道小学校との交流を広げる
			八鹿高校・但馬農高・第一学院など特色ある高校がある	大学がなく、進学費用も課題	「農林大学構想」など高等教育機関の検討／奨学金制度拡充
教師が若返り、学校への設備投資も進んでいる	教師不足／新採用が続かない／勤務時間が長い	教員確保に全力／残業削減に向けた体制整備			
その他	B5	教育・子育てと地域	子どもが少なく、きめ細かな授業やマンツーマン指導が可能	子どもの数が少なく、友達作りや交流が難しい／いじめリスク増	人間関係づくりを大切に／地域全体で子どもの交流を支える
			高校が3つあり、有効活用できる	学びたい学校が近くにない／人口減少で小中学校の統廃合の不安	学校の将来像を地域で共有／合併に関する協議会の設置
			地域の人子どもを見守り、雪かきや傘などのサポートがある	「子どもが本当に困ったとき」に相談できる場が不足	高齢者含めた地域全体のサポート体制を強化
			AEDが設置されている	AEDの管理（期限切れなど）が不十分	管理徹底・点検体制の共有
			コミュニケーションをとれる施設（YBファブ等）がある	子育てイベントや交流の場が少ない／若者に響く発信不足	地域住民が魅力を再認識し、イベントや交流を企画／発信力強化（「伝える」から「伝わる」へ）
			地域活性化を自治協が中心に進めている	アピール力が不足／若い世代に届かないイメージ	DX化やこまめな情報発信／価値観・現状の共有

III：産業・雇用（地域の魅力と雇用）

分類	(集計上での分類)	良いところ	課題	自分たちができること・改善策	
雇用、働く若者支援	C1	仕事・雇用の基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・Uターン交付金がある ・起業しやすい（起業塾・補助金） ・創業塾がきっかけになる ・下請け的な仕事の取り込みも可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く場所が少ない・就職先の職種が限られている ・産業基盤が弱く安定企業が少ない ・面白く魅力的な仕事が少ない ・大手企業の採用条件が厳しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・都会で疲れた人が「養父で働きたい」と思えるような自由で自然なPRを発信
		若者の定住・暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・保育料無料で子育て世代に優しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の一人暮らし物件が少ない ・テレワーク環境が弱い ・若者の集まるおしゃれスポット不足 ・婚活事業が少ない ・リモートワーク拠点が無い 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域におしゃれさを出す工夫をして若者を呼び込む ・公共施設を活用してテレワークの場を整備（提案）
		人材育成・農林業	<ul style="list-style-type: none"> ・草庵先生の教え（伝統的な人材育成の知恵） 	<ul style="list-style-type: none"> ・農林業を学ぶ大学がない ・若手人材が育たない、協力隊も定住しない（もうからないから） ・農業PR不足で若者が魅力を感じにくい ・人手不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の魅力を自由で自然なPRで発信し、都会の若者に「稼げる・楽しめる」と感じてもらう
企業誘致、商業施設誘致	C2	企業・雇用基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致に取り組む人材がいる ・土地が安い（拠点立地の強み） ・鳥取県立ハローワークが機能的で実績もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致が難しい／広域的に必要 ・工場がない／町から遠く送料が高い ・働く場所不足 ・地場産業の賃金が低い ・事業承継の遅れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・若いベンチャー企業を増やす ・半導体工場など新規産業の誘致 ・鳥取ハローワークの成功事例を学び「週一取締役」など仕組み導入
		外国人雇用	(特に無し)	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人活用の情報不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人雇用サポートセンター設立
		テレワーク・新	<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな環境はテレワークに最適 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワーク拠点が整備されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワーク環境をPR・整備（提案方向）
		生活利便性	<ul style="list-style-type: none"> ・食品スーパーが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが遊ぶ施設不足 ・空き家が増加 	<ul style="list-style-type: none"> （改善策は未記載だが、空き家活用や複合施設整備につながる）
		飲食・商業	<ul style="list-style-type: none"> ・オックス（コーヒー店）など個性的な店がある ・小さな飲食店が魅力的でおいしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・外食施設が少ない（レストラン・飲み屋） ・女性向け店舗が少ない ・八鹿に食の拠点不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設と公共施設を一体化し「人が集まる拠点」整備
		交通拠点（駅・IC）	<ul style="list-style-type: none"> ・八鹿駅がある（大きな強み） ・八鹿ICも近い 	<ul style="list-style-type: none"> ・八鹿駅が活用されていない ・駅前が元気ない ・八鹿IC周辺にアウトレットなど商業施設が欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・八鹿駅前・IC周辺を商業と公共拠点に
		教育・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・第一学院に全国から生徒が集まる（教育のブランド力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・古い歴史や文化を捨てる傾向がある（人材育成・文化継承の課題） 	<ul style="list-style-type: none"> ・（改善策は明記されていないが、教育資源と文化をつなげる方向性）
地域産業・経済の活性化	C3	農畜産物・特産品	<ul style="list-style-type: none"> ・但馬牛、蛇紋岩米、朝倉山椒、八鹿豚、八鹿浅黄など多彩な特産品 ・大屋のウイスキーや加工品など新しい試みもある ・学校給食でも地元食材が活用 ・「みずきの里」など成功事例あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド米や八鹿浅黄など知名度不足 ・ブランド商品の宣伝不足 ・商品の値段と労働賃が釣り合わない ・6次化のハードルが高い ・高齢化による事業継続の仕組み不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・「やぶブランド」米・野菜のグループ化 ・「行列のできる朝倉山椒week」「八鹿豚まつり」などイベントで魅力発信 ・ブランド商品は地元で加工・販売・委託
		地産地消・食文化	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅やスーパーで地元産品が購入できる ・地元食材で給食がおいしい ・食産業が豊か 	<ul style="list-style-type: none"> ・食のイベントが弱い（他市比較でPR不足） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元で生産・加工・販売を完結させる ・食のイベントを工夫して開催
		自然資源・発電	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな水資源（小水力発電可能） ・山川草木の自然環境が財産 	<ul style="list-style-type: none"> ・小水力発電が推進されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・特区を活用した小水力発電（規制緩和）

III：産業・雇用（地域の魅力と雇用）

分類	(集計上での分類)	良いところ	課題	自分たちができること・改善策	
	ブランディング・広報	<ul style="list-style-type: none"> ・養父市全体でブランド化が進んでいる（努力の姿勢あり） ・経済合理性以外の価値に目を向ける地域性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド化や情報発信が弱い ・広報（紙媒体）が他市に比べ劣る ・情報共有の仕組み不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS発信だけでなく対人販売強化 ・ふるさと納税を強化・他地域の事例（岩津ねぎ、黒豆枝豆）を参考にブランドを磨く 	
農林業	C4	米・農産物	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしい米、棚田、良質な水 ・米不足時も安定供給 ・営農組合が農地を守る ・800m高原農業の可能性 	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りの後継者不足 ・高齢化で継続困難 ・農地が細かく分散 ・中山間地の農地放棄 ・治水リスク 	<ul style="list-style-type: none"> ・米の高価格化 ・稲木乾燥を復活しPR ・中山間地向けの補助制度
		有機農業	<ul style="list-style-type: none"> ・「有機の里」大屋 ・有機農業者が増加 ・オーガニックヴィレッジ宣言 ・八鹿浅黄など在来種あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・有機農業への関心がまだ低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・有機農業をブランド化してPR ・八鹿浅黄で食の安全を守る
		特区の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・農業特区指定 ・実績・ネームバリューあり ・ほ場整備進展 	<ul style="list-style-type: none"> ・特区の意義が伝わっていない ・有位性が薄れてきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・「もうかる農業」のビジョンを明確にする ・認定農業者以外にも補助を拡大
		林業資源	<ul style="list-style-type: none"> ・未活用の山林が多い ・森林組合による間伐 ・自伐型林業が広がり参入者増 ・林業支援制度あり ・林業で移住者も生まれた 	<ul style="list-style-type: none"> ・杉の間伐不足、植林後の手入れ不足 ・山の木が収益にならない ・山の荒廃、獣害増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・木材の利用 ・ブランド化 ・広葉樹を増やす活動 ・食料となる木を植えて獣害緩和
		林業の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・分収造林制度あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・搬出コストが高い ・助成が人工林偏重 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体の森林を対象にした助成制度をつくる
		後継者・新規就農	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者が増えつつある ・農業高校（但馬農高）が存在し、交流可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・農林業の担い手不足、高齢化 ・若者の定着が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・但馬農高との連携 ・CO-WORK ・農業と子育てをつなぐ活動（ママレンジャー等）
		耕作放棄地	<ul style="list-style-type: none"> ・営農組合が農地維持に努力 	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地増加、荒地化、治水問題 ・鳥獣害による被害 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光農園など新しい収益モデル ・人口に合った農地規模へ調整
		労力・経済性	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者も農業に参加できる仕事がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業はもうからないイメージ ・農機具コスト高・農繁期の人手不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業機械のシェア制度 ・観光協会・商工会・農業のワンチーム化で相乗効果
観光	C5	観光資源	天滝・氷ノ山・ハチ高原など豊富な自然資源	アクセス・道路・駐車場整備不足／観光客が少ない	名草神社や登山路の道路整備／低コストのハイキングコースや展望台整備
		観光資源	多数の観光地（青谿書院、八木城、名草神社、日光院、山田風太郎記念館など）	名所の知名度不足／文化財のPR不足（例：名草神社が国宝なのに知られていない）	養父市をめぐるツアー企画／歴史文化資源の広報強化
		観光資源	スキー場が複数あり、標高600m以上の立地	スキー場周辺の施設老朽化／観光地が点在してつながり弱い	周辺の施設改修・連携強化／観光協会・地域での一体運営
		観光資源	食や伝統芸能（子ども歌舞伎、食育イベント、市長主催の食イベントなど）	イベントの周知不足／目的が曖昧で集客につながらない	YBフェスやストリートMUSICなど「常設型の楽しみ」を追加／イベント広報の強化
		観光資源	祭り復活やロケ地選定など「話題性」あり	ロケ地になっても経済効果に結びついていない	有名ロケ地の観光商品化(映画誘致・聖地巡礼ツアーなど)
		観光資源	小さな魅力（お宮さん・川など）が外国人観光客に好評	インバウンド対応が弱い／情報発信不足（HP・CIR活用不足）	CIR活用による外国語PR／ガイド養成(シニア案内人の育成)

III：産業・雇用（地域の魅力と雇用）

分類	(集計上での分類)	良いところ	課題	自分たちができること・改善策	
		関西都市部から程よい距離で自然・文化・買い物が楽しめる	観光資源が多すぎて絞り込みができていない／方向性が不明確	ワークショップで新しい観光事業を発掘／資源を絞り込んだブランド化	
		YBフェスや地域イベント（広谷の活動など）	メタバース事業の方向性が不明確／実施しても集客につながらない	オンライン活用は補助的にし、実体験型観光に軸を置く	
商工	C6	産業・雇用	長寿企業が多い／事業継承に努力している	起業家を育て支える方法が弱い／資金集積が難しい／業種の偏り／製造業に活力がない	養父市の業者を優先指名（地域内循環強化）／芸術家や若手の育成・支援
			年収が少なくても食べていける・暮らしていける	仕事が少ない／職場を選べない／働く場不足	リモートワークを推進し、田舎暮らしと仕事を両立できる環境づくり
			職場が近い（通勤便利）	IT企業が少ない／サービス業や飲食店が不足／にぎわい不足（八鹿など）	芸術や文化活動を取り入れ、地域のにぎわい創出につなげる
			（生活コストの低さ）十分に住める	養父市ブランドの弱さ／名物・おみやげが無い／消費の場が少ない	地元業者や若手と連携して新しい特産品・ブランドづくりを応援
有害鳥獣	C7	有害鳥獣対策	-	シカ・イノシシ・クマなど有害鳥獣が多く、農業・林業被害が深刻	猟師の育成・優遇、捕獲手当アップ
			-	鹿柵や防護柵が破損・修理が追いつかない	獣害防護柵の補助金活用、設置推進
			-	農家の高齢化で獣害対策が難しい	猟師の育成、補助金による担い手支援
			-	農業被害により農業意欲が低下	肉の利用（ジビエ活用）
			-	行政や経営者への負担が大きい	バッファゾーン整備（農地と山の緩衝帯）
			-	シカのフンやヒル被害、交通事故	猟師活動＋防護策の併用
その他	C8	自然・生活環境	山・木が多く自然豊か／静かで空気・水が良い／寒すぎず涼しい／オオサンショウウオが生息	遊び場が少ない／雪が降る／魚が減少	野山を遊び場にする／オオサンショウウオをメインにした親水公園／有機資源の利用
		地域資源・観光	空き家が多い／京阪神の自然学校が来ている／交通の便が比較的良い／涼しい場所をアピールできる	空き家問題／泊まる施設・飲食店・お土産が少ない／トイレ不足／公共交通の利用が少ない	空き家活用（地域おこし協力隊等と連携）／高齢者ターゲットの利用／市長のトップセールス
		暮らし・サービス	職場が近い／ごみ対策が進んでいる／移動販売（マックスバリュ）あり	ごみ出しが遠い／飲食店・商業施設不足／移動販売業者減少	地域住民が協力してサービス補完／村同士のコミュニケーション
		行政・地域運営	市政が少ない予算で努力／人柄が良い／近所との距離が近い	人口減少／市職員が現場に出ない／商工会予算が少ない／日役に頼りすぎ	実効性のある行動を住民主体で実施／地域の人たちが協力／手を抜ける所と必ずやる所を明確化／産業優先

Ⅳ：インフラ（暮らしやすさとつながり）

分類	(集計上での分類)	良いところ	課題	自分たちができること・改善策	
公共交通、利便性の向上	D1	公共交通（バス・デマンド交通・やぶくる）	・バス路線が維持されている／山奥まで路線バスがある・学生バス助成／高齢者優待券150円・やぶくる（市民ドライバー）がある／デマンド交通も導入・免許返納しても移動手段がある	・バスの本数が少ない（土日特に）／空のバスの運行・バス停まで遠い／公共交通が使いづらい・やぶくるドライバー不足／利用状況の検証が必要・デマンド交通は地区外利用できない	・大型→小型バス化し運行回数を増やす・デマンドタクシー・交通を充実（予約制・柔軟）・やぶくる運行エリア拡大、ドライバー確保（自治協と協力）・公共交通利用促進キャンペーンやイベント連動
		自動運転バス	・快適で良い取組／実用化に期待・小エリアでも継続希望	・費用対効果に疑問／利用者が少ない・雨雪時も運行可能か不安・バス停での交通マナー課題	・小型運行や地域ニーズに合わせた実証・利用促進（体験イベントやPR）
		タクシー・助成制度	・介護タクシー助成が幅広い／病院外でも利用可・タクシー助成が充実しており高齢者に好評	・対象外エリアがある・行きたい時に行けない制約あり	・ウーバーなど柔軟なサービス導入・デマンドタクシーの強化（予約・時間自由度UP）
		鉄道・空港	・八鹿駅がある／全但バス本社がある	・八鹿駅駐車場不足／バリアフリー化が不十分・但馬空港は利用されず存在意義疑問	・駅前整備（駐車場・バリアフリー）・空港・鉄道利用促進の企画や広域連携
		生活利便性（買い物・病院）	・公共交通が一応充実している	・買い物困難者問題（店舗が少ない）・八鹿病院駐車場が狭い	・移動販売＋地域行事の連携・医療・教育・福祉をミニマム拠点化・住み替え住宅（冬期など交通弱い地域向け）
地域コミュニティの充実	D2	自治協の基盤	・各集落に公民館がある・自治協が充実／活動活発／工夫に富む・交付金制度による活動支援・自治協の存在が心強い	・参加者不足（特に若い世代）・役割や意義が不明瞭・申請方法や仕組みの広報不足・個人情報守秘体制不十分	・自治協活動の参加継続・柔軟な予算使途の検討・情報整備プラットフォーム（HP・SNS）活用・SNS担当を設け、活動の「見える化」
		地域コミュニティ	・人の顔が見えるつながり・近所の距離が近い・行政が地域に目を向けている・小さな組織でも活性化につながる取組	・いいことを言葉にしない／悪い面ばかり注目・コミュニティの場が不足	・自由に発言できるコミュニティづくり・なんでも相談所を設置（自治協連携）・男女共同参画の推進（女性役員登用）
		世代間交流・高齢者	・シニアが多く歴史を伝えられる・奉仕活動や環境づくりに積極的	・高齢者クラブの減少・若者とシニアの交流機会不足	・シニアの趣味発表の場（空き家活用）・カフェ・交流広場で多世代交流・イベント時の送迎や付き添い支援
		祭り・行事	・伝統行事が継承されている・地域ごとに特色ある取組	・八鹿町に祭りが無い	・夏祭り検討委員会立ち上げ・クラウドファンディングで資金集め
		情報発信・共有	・自治組織連絡協議会で意見交流できる・団体間で活動している	・取組が市内で共有されていない	・活動をオンラインで共有・おしゃれでワクワクする場を発信（SNS・イベント）
住宅支援	D3	住まいのコスト	・賃貸の家賃が安い	・住宅改修や支援制度が分かりにくい・耐震改修への補助が不十分	・制度を分かりやすく整理・周知・公的資金の投入で改修しやすくする
		住宅の安全性・維持管理	—	・耐震改修の見積もりまでが大変	・一部民営化（徴収・管理業務）による効率化・高齢化した移住者や不在地主の家を維持できる仕組みづくり
		土地・インフラ管理	—	・人口の割に面積が広く管理が行き届かない（インフラ縮小が難しい）	・売買しやすい環境整備（法整備・税制改正）・空き家・空き地を活用した新しい仕組みづくり
住環境	D4	上下水道・水資源	・水道水がおいしい／安心して飲める・上下水道が整備・充実している・料金が安い（と感じる人も）・公共運営で安心	・水道代が高い（と感じる人が多い）／合併で高騰・水道管が老朽化（サビ・汚れ）・将来的な維持が心配（水源不足も懸念）・トイレが少ない	・上下水道整備の長期展望を明示・「水のおいしさ」を生かしたペットボトル販売など商品化
		住環境	・住環境が広く心地良い・自家用車があれば暮らしやすい・のどかで自然に恵まれている・人と人のつながりが強い	・土砂災害警戒地域が多い・インフラの維持コストが心配	・災害に強い住環境整備を進める・住民参加で環境整備（行事・奉仕活動など）
		生活利便性・移住	・雪が降る（四季の特色）	・移住物件のデジタル化不足・若者が住みやすい環境不足・飲食店や商店が少ない・男女が交流できる場所不足・人口減少、獣害増加	・行事・催事に積極参加し地域の魅力を高める・交流の場づくりを検討・移住促進に向けて物件情報のデジタル化を進める
		空き家の存在と利活用	・空き家バンク事業がある・空き家を安く活用できる・移住が格安で可能になる	・空き家が多い／使われていない・空き家活用が進んでいない／宣伝不足・空き家活用の意味がないのでは？との声	・空き家バンクのPR強化・空き家情報の一元化（市で整理）・空き家を交流カフェ・勉強スペース等に活用
		空き家の安全性・整備	—	・老朽化・危険な家屋がある・解体費用が高い／助成不足・空き地・草木の管理が行き届かない	・リノベーション補助（居場所や住居として活用）・空き家を手放しやすい仕組みづくり・平屋の推奨で安全・管理しやすい住宅へ

Ⅳ：インフラ（暮らしやすさとつながり）

分類	(集計上での分類)	良いところ	課題	自分たちができること・改善策	
空き家	D5	市営住宅の活用	・市営住宅に空き室あり	・市営住宅の改修が進まず放置気味・まだ健全なのに使われていない	・冬季限定の集合住宅（高齢者向け）として活用・若者や新卒者の「下宿体験施設」として活用
		人口・地域の維持	・空き家があることで移住の可能性が広がる	・若者世代が空き家を見つけにくい・地域の高齢化で将来さらに空き家が増える不安・新築住宅が建つ一方で空き家が放置される	・空き家を「住むだけでなく集える場所」として再利用・移住者を地域に結びつける形で入居促進・空き家を帰省用の宿泊施設として整備
デジタル・DX	D6	マイナンバーカードの普及・活用	・普及率90%以上（全国上位）・保険証として利用可能・赤ちゃんから高齢者まで使える環境・住民票等をコンビニで取得できる	・手続きが分かりにくい・活用方法の周知不足	・仕組み・制度の周知徹底・説明会や訪問で利用方法を広める
		やっぶるポイントの仕組み	・歩くとポイントが貯まる・使いやすいとの声あり・デジタル活用例として定着	・参加店が少ない・貯め方・使い方が限定的	・やっぶるポイントを「地域通貨」として拡大・魅力発信イベントで利用促進
		ネット・WiFi環境	・養父市内WiFiが充実・ネットがつながりやすい	・フリーWiFiが少ない・HPが見にくい・ネットでの情報発信不足（SNS活用が弱い）	・公民館等に情報受信設備を整備・SNSやイベントで情報発信を強化
		DXの推進（行政・地域）	・DXで大学と連携・ドローン活用の理解あり・期日前オンライン宣誓などの取組	・「ドローンは何に使う？」と具体的用途が見えにくい・DXの恩恵が市民に伝わりにくい・自治会ではパソコン未活用・デジタル窓口の不十分さ	・DXの恩恵を「見える化」する取組・地区公民館や集いの場でのデジタル教室・相談課（デジタル・生活）を設置提案
		サポート体制	・スマホ相談員がいる	・デジタルクーポンが使いにくい・高齢者や非利用者へのサポート不足	・訪問して説明・サポート・地域単位での教室開催
自然	D7	自然・景観	・緑が豊か、山川や鳥など自然が身近・夜が静かで星空がきれい・水がきれい・鉱山遺構など資源が豊か・災害が少ない	・大雨による水害や土砂流出の危険・山林管理が不足し災害リスク増	・山林の手入れを「イベント化」し、住民参加で楽しく進める
		暮らしの安心	・除雪が早い	・今後の除雪体制の維持が不安・体制見直しの必要性	・地域で協力できる体制を検討(イベント型やボランティア連携)
		地域資源の活用	・ロードバイクやツーリングで訪れる人が増えている	・観光客が増える中で安全面（道路や山林管理）が課題	・自然体験や森林手入れを観光イベントと結びつける
		インフラ・治水	・水資源がある	・八鹿ダム早期再開が必要・地籍調査で住民負担が大きい	・意見集約や協力体制を整え、行政と連携して改善を提案
インフラ全般	D8	道路の利便性	・道路が広い、運転しやすい・国道・高速ICが近い、移動しやすい・道路整備が進んで都会に行きやすい・分譲地が増え安心して住める	・県道が狭い、舗装が悪い・市道が狭い・荒れている・道路改修が追いついていない	・道路拡張に協力（例：県道拡張運動に参加）・田舎道は残し、道路幅拡張と共存を図る
		インフラの維持管理	・地籍調査が進み林業に有利・防災設備の充実	・インフラ（橋・トンネル・農業用水路・農道）の老朽化・歩道が少なく、清掃不足	・「まちづくり組織」を作り、人・予算を確保して課題解決に取り組む
		除雪体制	・除雪が比較的早い・充実している	・地域によっては除雪が遅い、学校・通勤に支障・除雪車の小型化が必要	・住民や組織で除雪協力を検討
		観光・景観資源	・景色が美しい・観光資源が豊富にある・食べ物おいしい・買い物環境（yタウン）が便利	・観光資源が生かしきれていない・観光登山道の整備不足・食を生かしたレストランが少ない	・ウォーキングコース化などで道路を観光資源に活用・観光と交通整備を結びつけた取組を推進
		暮らしの安全性	・安心して住める環境	・河川改修が必要、護岸が脆弱で土砂流出の危険・限界集落での生活維持（買物・医療）が課題	・地域住民で意見集約し行政へ提案・道路や河川管理を住民活動と結びつける
その他	D9	人の魅力	・人がやさしい・野菜がおいしい（地域の温かみや暮らしやすさに直結）	・人に頼るのが苦手（SOSを出せない）・女性への偏見、閉鎖的な考え方が残っている	・成功例や体験談を共有する場をつくり、助け合いの空気を広げる
		地域運営・広報	・住民に温かさがあり協力基盤はある	・広報が下手で情報が伝わらない・慎重すぎて進行が遅れる	・体験談共有の場を「広報の場」として活用し、前向きな情報発信につなげる
		施設・財政	・安心感ある地域資源（野菜・人柄）を土台に活用可能	・公共施設が古く、維持費がかかる（ハコモノ問題）	・施設維持をテーマにした体験談・成功例を共有し、住民が納得できる議論を進める